

ピースボート 105 日間の旅の中に、安息日というのが3～4回ある。その日一日は、いろいろな企画はすべてなしで、ゆったり過ごそうという日である。3月9日、スエズ運河通過の日は安息日だった。

その日は、自主企画など入れないで、船旅でしか経験できないスエズ運河の航行だけを、デッキに出て楽しもうというわけだ。屋上デッキではビアガーデン、前方デッキには特設バーがオープンしたが、あいにくの空模様で、薄ら寒く時々雨も降り、ビールを飲む気分にはならなかった。

スエズ運河はフランス人のレセップスによって建設された、というのは小学校か中学校の社会科で習った。それ以上のことは何も知らない。今回もまた2日前からの俄か勉強だ。運河は川ではなく、水利のために人工的に造られた水路である。そこまでは納得。

歴史的には、地中海と紅海をつなぐ試みは大昔からあったという。紀元前1800年代に、ナイル川と現在のスエズとを結ぶ東西に走る運河が掘られた。これは、運河とナイル川を通して紅海と地中海を結ぶもので、8世紀まで3000年近くも使われていたのだそうだ。大航海時代には、ヨーロッパ人は香辛料や黄金を求めて東方へ向かった。アフリカ大陸南端の喜望峰回りのルートが、ヨーロッパとアジアを結ぶ貿易路として400年近く続いた。ヨーロッパ人にとっては、アジアへの最短距離を可能にする地中海と紅海を結ぶ運河の建設は長年の夢だったろう。

ナポレオンがエジプト遠征に同行させた学術調査団のひとり、ル・ペールの書いた「二つの海をつなぐ運河」と題する覚書に

は、地中海と紅海の水位差が10mに及ぶため運河の建設は無理だと記してあったという。当時（19世紀初頭）は、技術や経費の関係で、水位を人為的に調節するための閘門をつくるのは難しかったようだ。ところが、地中海と紅海の実際の水位差は1～2mだった。それに気づいたレセップスは、運河建設の許可書を取り着手することになるが、工事中には12万人もの労働者が亡くなり、10年の歳月をかけて、スエズ運河は1869年にやっと完成にこぎつけた。そこまで犠牲を払って建設された運河だったが、エジプト政府の困窮によりわずか6年で英国に売却され、その後数十年間にわたって英国は運河を所有し、そこから莫大な利益を得た。

クーデターを経て大統領に就任したナセルは、1956年「スエズ運河の国有化」を宣言、これに反対して、英仏イスラエルが派兵し第2次中東戦争勃発、米国の介入。結果的にはエジプトは運河の国有化に成功したが、スエズ運河はその後もつねに緊迫した状況と隣り合わせにおかれてきた。

紅海側のスエズ運河の入口にスエズというまちがある。ピースボートはその近くに前日の夜から沖泊まりして待機し

た。そしてコンボイという船団を組んで、翌朝8時頃からスエズ運河に入り地中海に向かった。15～16隻の船の8番目にピースボートはつけている。約170kmのスエズ運河を、平均時速7ノット（13km）というゆっくりした速度で船団は進む。左舷のアフリカ大陸側は、緑が多く人家や畑もあって、農作業をしている人の姿もある。どんな作物をつくっているのだろうか。運河に沿って鉄道線路も敷かれていて、列車が走っているのも見られた。右舷のシナイ半島側は、荒涼とした砂漠地帯が延々と続き、人影も建物も肉眼では見られず、左舷側とは対照的な風景だ。しばらく同じような景色が続くときには、キャビンに戻って休憩する。要所要所では船内放送が入るのでそのときにまたデッキに出る。

事前に話には聞いていたが、6階のレセプション脇で“アラブの商人”達が店を開いて商売を始めた。彼らはポートスエズからパイロットと一緒に、その関係者として乗り込んできたのだ。床にエジプトのお土産品をずらりと並べたところに、結構な人ばかりができています。値段の交渉など見ているだけで楽しい。つつい私もTシャツと菜と便箋を買ってしまった。2割くらいは値切ったと満足していたが、その晚上陸したポートサイドの土産物屋ではその半額くらいで売っていた。さすが“アラブの商人”である。

しばらくキャビンで休んでいると、スエズ運河で一番大きなグレートピター湖に入ったとの放送があった。デッキに出てみると、運河の幅はぐっと広がり、地中海側から航行してきたコンボイとすれ違うところであった。客船よりも圧倒的にタンカーが多い。左舷のアフリカ大陸側は、リゾート地として開発が進んでいる。建物もたくさん目につく。

午後には、もうひとつの湖のティムサーフ湖を通過。ここまで来れば運河も半分以上過ぎたことになる。運河の壁に200m毎に数字がついている。これはポートサイドからの距離を表している。紅海側から進むと、その数がだんだん減っていくので、地中海に近づいているのを実感できる。

夕方、前方はるかに橋が見えてきた。2001年、日本のODAを受けて完成したスエズ運河橋だ。正式名称は、El salam Bridge(平和の橋)、シナイ半島とアフリカ大陸をつなぐ全長300mの巨大な吊り橋だ。スエズ運河には、これまでに何回か橋が架けられたことがあったが、いずれも中東戦争などで破壊され、このスエズ運河橋は34年ぶりとのこと。この橋をくぐるとポートサイドまでもうひと息。通常8時間～12時間かかるといわれるスエズ運河をなんと8時間余りで通過したのだ。予定より4時間ほど早い18:15、ポートサイド入港だった。



アフリカ大陸側の緑が多いリゾートビーチ



シナイ半島側の荒涼とした砂漠地帯

